

第4回 平塚市総合計画審議会

会議録

日 時 令和6年1月18日(木) 10時00分～10時45分

場 所 平塚市役所本館3階 302会議室

出席者 19名

大熊委員(会長)、湯川委員(副会長)、白石委員、齊藤委員、秋山委員、田中委員、木川委員、金田委員、志村委員、大場委員、中村俊太委員、藤井委員、森委員、米村委員、片倉委員、出村委員、上野委員、尾上委員、篠田委員

市出席者 2名

事務局 8名

傍聴者 0名

開会

1 市長挨拶

2 議題

(1)(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)に対する答申(案)

【会長】 前回の審議会で諮問を受けた後、委員からの2次素案に対する意見を私と事務局で整理し、「答申(案)」をまとめさせていただいた。本日は、この「答申(案)」に対し、委員の皆様から御意見をいただき、最終的なものとして完成させたい。本日の会議が最後となるので、委員の皆様の御協力をお願いしたい。

それでは、私の方から「答申(案)」の大まかな説明をさせていただく。

まず、資料1「第3回平塚市総合計画審議会における意見とその対応」については、前回の審議会で委員の皆様からいただいた意見を私と事務局で「答申(案)に反映」、「計画案に反映済み」、「参考」に整理させていただいたものとなっている。

次に、資料2「(仮称)次期平塚市総合計画(2次素案)について(答申)(案)」については、資料1を基に、これまでの議論を踏まえ、「答申(案)」としてまとめたものである。構成と要点について簡単にふれさせていただく。

1ページ目は前文となっており、日本全体の課題、日本におけるそれに対応する政策、それを踏まえた上での平塚市の人口動態の状況、それらを踏まえての平塚市の課題として、少子化の進行、産業の活性化、高齢化の進行、安心・安全で暮らしやすいまちづくりと大きく4点ある。こうした課題に対して重点戦略として取り組むとともに、さらにDX・GXについて横断的に取り組む基本計画になっていることから、その姿勢は評価できるということ。その上で、日々情勢が変化してきているので、能動的に対応してもらいたいとしている。

2ページ以降に具体的な事項として、人口減少社会への対応、DX・GXの取組、計画の推進、その他と大きく4つの事項について、委員の意見を整理して答申の内容を書き込んでい

る。

人口減少社会への対応については、固定的な性別役割分担意識を解消すべきこと、コミュニティの対応を含めて公民館や公共施設を幅広く活用していくこと、教育・福祉中心に人材の確保、育成が重要であるということを書き込んでいる。

DX・GXの取組については、双方に共通して市民の暮らしをより豊かなものにしていくことが大事なので、その視点で検討して欲しい。あるいは、組織横断的に取り組んで欲しいとしている。

DXの取組については、想定している取組以外にも考えられるため、大胆な発想をもって取り組んでいただきたいということ、セキュリティの確保が重要であること、実際のニーズを踏まえて施策を進めることについてふれている。

GXの取組についても、産業と市民の暮らしを向上させる方向で施策を進めていくことが重要であること、事業者同士の横の連携・ネットワークが重要であること、交通などのまちづくりについても検討すること、公民連携で幅広く横断的に施策を検討することを書き込んでいる。

計画の推進については、より高い目標を掲げてもらいたいこと、今回の計画策定に限らず見直しの際にもしっかり検証すること、そしてこの計画を受けた実施計画、個別計画が重要であること、市民・企業へのプロモーションについてしっかり進めてもらいたいこと、施設や事業の廃止・統合は難しいことに触れつつ、質を高める視点で事業を展開することを書き込んでいる。

最後にその他として、語句、文章表現、解説など、工夫して分かりやすくすること、今後、財政関係の情報が出てくるので、計画策定直前までしっかり検討することを書き込んでいる。事務局から、追加や補足の説明があればお願いしたい。

【事務局】 人口の将来展望に関してお知らせがある。先月下旬に、国立社会保障・人口問題研究所から、最新の将来推計人口が公表された。その内容を反映させ、本市の人口推計を修正する予定である。速報として、2070年の将来推計人口は、見込みよりも2万から3万人増えることになる。

【会長】 人口が減少していく方向に変わりはないため、今回の答申案に影響はないと考える。

それでは、これより意見をいただくが、この答申は2次素案の具体的な文言修正や修正方法を指示するものではないので、承知願いたい。それでは、意見や質問があれば、挙手をお願いしたい。

【委員】 前回の審議会から今回の審議会までの間に能登半島地震が発生している。基本計画の中で、防災に対する方向性が示されているが、答申の中で若干でも能登半島地震にふれることができれば良い。

【委員】 同感である。答申において能登半島地震にふれると、時代的な背景が分かる。また、神奈川大学の跡地利用など、平塚市が抱えている課題を市民と共有することが大事であることから、平塚市が抱えている課題に対する認識を入れ込めると良い。

【委員】 今後、自治体だけでは対応しきれない社会経済環境になってくると思われることから、官民連携は重要である。官民連携については、答申案のGX(脱炭素化)の取組において記載されていることは承知しているが、全ての分野において官民連携を入れ込めると良い。全ての分野において、官民連携に取り組むことで、総合計画の推進が図りたいといった内容があると良い。

【委員】 人口減少社会への対応で、人材の確保・育成の視点が記載されているが、さらに一歩進

めて人材の流出についてもしっかりと対応していく必要がある。人材が流出しないためには、職場環境の整備が重要であり、その取組について行政としてもしっかりと後押しをしていく姿勢が加えられると良い。

【委員】 常々思っていることが答申案に入れ込まれている。中期的な計画は策定をすること自体が目的になって終わってしまうことが多く、答申案にこの基本計画の策定をゴールとせずという言葉をしっかり入れて、そこから繋がっていく実施計画や個別計画に踏み込んでいる記載となっている。

平塚市は色々な施策が用意されているが、市民や事業者が知らないことが多いことから、関係団体と協力して告知することも含めてプロモーションをしっかりとやっていうことが一番重要である。これも書き込まれている。

能登半島地震のような大きなインパクトがある事象が発生すると、企業としてもBCP（事業継続計画）を見直す際には、大きなテーマとして取り上げることになる。

【会長】 今回は最後の審議会であり、答申をまとめていく必要がある。

能登半島の震災から、防災対策の重要性についてふれる点については、共通理解が得られていると感じている。

平塚市の課題について、しっかりと踏まえるべきという意見について、趣旨としてはその通りではあるが、答申や計画に個別具体的内容を書くことについては、慎重に考える必要がある。今直面している様々な課題にしっかりと対応していくという方向性が、さらに明確にできるかという点については、考える必要がある。

官民連携について、GX（脱炭素化）だけでなく、全ての分野で重要であるといった意見はその通りである。どのような形で答申に入れられるか、今、この場では明確に言えないが、工夫が必要である。

また、人材が流出しないための環境整備についてだが、人材の確保・育成は概念として大きいのが、人材の流出を防ぐ環境の整備は少し個別的な内容となってくる。人材の確保・育成と並べて書くことが望ましいかは考える必要があり、何らかの形で意図する内容が入るよう事務局と相談して考えたい。

それでは、意見は出尽くしたようなので、最終的な調整は私に一任させていただくということでよいか。

【委員一同】 異議なし。

【会長】 感謝する。事務局と調整して答申書を完成させたい。

完成させた答申書は、私と副会長で、後日、市長へ手渡しする予定である。なお、答申書の写しは、事務局から各委員へ送付させていただく。

また、答申への対応として、計画書を修正する部分も出てくると思われる。計画書の具体的な文言の修正に関しては、市の責任において、しっかりと検討・調整し、必要な修正をするようお願いしたい。以上で議事を終了とさせていただきます。

（２）その他

特になし。

閉会

以 上